

# 『春の詩』

一つの春賛美歌

陽の光は日を追って長くなり、  
数え切れないほどのつがいが、  
互いを求め合って鳴く声が響く中、  
夜は優しく囁く咲き誇る花々の芳醇な香りが  
一面に漂う綿雲が、  
入道雲に成長し、  
降り注ぐ雨が小川を満たし  
大地を鮮やかに繁茂させる。  
地球は再び緑を取り戻す。

**ティン：**（ため息）たいていの詩人の個人的な歓喜は判読できない。

**ミン：** 詩を理解するには、自分の経験から詩を思い描くのが一番かもしれません。  
春のことが好きですね。

**ティン：**（肩をすくめる）うん。

**ミン：** そして、香りのよい花に囲まれていると、時々目がくらむように感じませんか？

**ティン：**（せっかちに）もちろん。それは典型的な反応です！

**ミン：** まあ、詩の残りの部分はただのフィラーです。その新鮮さの感覚だけが重要です。

- T Newfields（和訳：吉田典子と Teresa）

開始：2002年名古屋市 完成：2021年横浜市

